



2010年2月1日

各位

Medicinova, Inc.
代表取締役社長兼 CEO
岩城 裕一
コード番号： 4875 大証ヘラクレス
問合わせ先： 東京事務所代表 副社長
岡島 正恒
電話番号： 03-3519-5010
E-mail： info@medicinova.com

新執行役就任に関するお知らせ

2010年2月1日 米国 サンディエゴ発 - メディシノバ (MediciNova, Inc.) (米国カリフォルニア州 サンディエゴ、代表取締役社長兼 CEO：岩城裕一) は、下記のとおり執行役を任命しましたのでお知らせいたします。

記

1. 氏名及び役職名

氏名 カーク・ジョンソン (Kirk Johnson)

役職 チーフ・サイエンティフィック・オフィサー (Chief Scientific Officer)

2. 就任日

2010年2月1日

なお、ジョンソン氏の略歴は以下のとおりです。

【略歴】

カリフォルニア大学デービス校にて理学士取得。

ヴァージニア医科大学にて薬理学・毒物学の博士号取得。

カリフォルニア大学バークレー校及びダートマス医科大学にて、博士課程修了後のフェローシップとして、インターロイキンIIの作用機序を他の研究者と共同研究。

1991-2001年まで、米国ワクチン最大手カイロン社 (Chiron Corporation) のタンパク質及び低分子治療分野の研究開発部門に在席。最終的に、薬理学及び前臨床研究の長を務める。(この間、神経痛・貧血・抗菌薬・糖尿病・肥満・急性炎症・心疾患などを初めとして、薬理学・毒物学以外の分野でも多くの開発を手がける。さらに、何件かの治験許可申請 (IND)、米国外の倫理委員

会に対する申請、新薬承認申請（NDA）などを成功に導いている。）

2001-2004 年前半まで、ジェネソフト・ファーマスーティカルス（Genesoft Pharmaceuticals）において、薬理学・前臨床研究の専務取締役及び上級執行役を務める。

2004-2009(メディシノバによるアヴィジェン買収成立時)まで、アヴィジェンにおいて研究開発担当副社長を務める。

2010 年 2 月 1 日 メディシノバ執行役（Chief Scientific Officer）就任

ジョンソン氏は、これまでに約 65 の学術論文を発表し、また、米国において 12 件以上の発行済特許を有している。

以上

メディシノバについて

メディシノバ（Medicinova, Inc.）は、日本内外の国際的製薬企業との提携により有望な低分子化合物を導入し、様々な疾患領域の新規医薬品の開発を主として米国で行う公開製薬企業です。弊社のパイプラインには、喘息急性発作、COPD（慢性閉塞性肺疾患）の増悪、多発性硬化症を初めとする神経疾患、神経因性疼痛、薬物依存、喘息、間質性膀胱炎、固形癌、全般性不安障害、切迫早産、尿失禁など、多様な疾患の治療を目的とする 6 つの臨床段階の化合物と、血栓症治療を目的とする 2 つの前臨床段階の化合物が揃っております。メディシノバは、当面その戦略として、喘息急性発作及び COPD の治療薬 MN-221 と多発性硬化症などの神経疾患治療薬 MN-166 との 2 つの優先的開発化合物に資源を集中して開発を進めていく予定です。MN-221 については、米国内で独自に開発を行い、一方 MN-166 については、開発に際して、戦略的な提携関係を構築することを考えております。また、他の製品候補につきましても、現金化を試みて参ります。弊社詳細につきましては <http://www.medicinova.jp> をご覧下さい。メディシノバの所在地はアメリカ合衆国カリフォルニア州サンディエゴ市ラ・ホイヤ・ヴィレッジ・ドライブ 4350、スイート 950（電話 1-858-373-1500）です。

このプレスリリースには、1995 年米国民事証券訴訟改革法（The Private Securities Litigation Reform Act of 1995）に規定される意味での「将来の見通しに関する記述」が含まれている可能性があります。これらの記述には、製品候補の治療法としての新規性および効能を実証する臨床試験に関する記述、既存または将来の臨床試験の計画や目的および製品開発に関する計画または目的に関する記述などが含まれます。このような記述には、臨床試験の結果、現段階の臨床試験の結果が必ずしもその後の製品開発の行方を確定するものではないこと、将来の臨床試験のタイ

ミング、費用、計画など、臨床試験、製品開発および商品化に付随するリスクや不確定要素、FDA に対して書類を提出するタイミング、当社の戦略の失敗、第三者との提携構築、アヴィジェンとの合併により、イブジラストに関する開発プログラムを統合することにより期待される戦略的、財務的メリットを実現する可能性、イブジラストに関する開発プログラムを進めるための戦略的提携交渉、または、資金調達の可能性、知的財産権や契約上の権利を初めとして、当社が米国証券取引委員会に提出した届出書に記載されているものも含めたその他のリスクや不確定要素など、その多くは当社のコントロールが及ばないいくつかの前提、リスク、不確定要素の影響を受けるものであります。したがって、「将来の見通しに関する記述」はその時点における当社の状況を述べているにとどまり、実際の結果または成り行きは、必ずしも予想通りにはならない可能性があることにご留意下さい。また当社には、この記述に関して、情報の修正または更新を行う義務はありません。